苫小牧民報
2015.06.03

柏原の原野でハスカップの分布調査

苫東環境コモンズ　市美術博物館

ハスカップの木を調査する草苅事務局長と小玉学芸員（右）

【苫小牧】国内最大の自生地とされた勇払原野のハスカップの現状をつかむため、NPO法人苫東環境コモンズ（事務局苫小牧）と苫小牧市美術博物館は2日、苫小牧東部工業地域（苫東）の市内柏原の原野で植生調査を行った。今年から両者が協力して調査を進める方針で、今回は初の共同作業。調査地では花を咲かせたハスカップの木を多数確認したものの、湿地帯の乾燥化の影響からか、立ち枯れも目立ち、関係者から自生地の環境変化を心配する声が上がった。

自生地の環境の変化 懸念

乾燥化原因か

立ち枯れたハスカップの木

調査に同行取材した。苫東の原野を横断する道路の脇に車を止め、歩いて調査地に向かう。調べる場所は、苫東の自然の保全活用に取り組んでいる苫東環境コモンズが「ハスカップ・サンクチュアリ」（保護区）と呼ぶ自生地だ。

うっそうと草木が茂る緑の原野に踏み込む。高さ2㍍ほどあるハスカップの木が目に飛び込んだ。コモンズ事務局長の草苅健さんは「この辺で1番大きなハスカップの木。シンボル的な存在です」と言った。

今回の植生調査は、コモンズから草苅さんを含めて3人、市美術博物館から小玉愛子主任学芸員が参加した。この日の調査区は0・4㌶。コモンズのスタッフはGPS（全地球測位システム）3台を使い、ハスカップ、ベニバナヒョウタンボク、ハンノキの分布位置を正確に記録した。小玉学芸員はハスカップの花の写真を撮影し、植生をメモに記録した。

ハスカップによく似た木が横倒しになっていた。幹は白く変色し枯れている。「ハスカップに近い種のベニバナヒョウタンボクです。環境の変化のせいか、枯れている木を多く見掛けます」と草苅さん。近縁種が枯れ始めているということは、ハスカップにも同様な状況が起きているかもしれない—と心配した。

原野を進むと、ミズナラやハンノキが多くある場所に出た。一帯が乾燥化し、樹木が生い茂るようになってきている可能性がある。青々とした葉を付けたミズナラの木の下に、乾燥化の影響からか、立ち枯れしたハスカップが目に付いた。

枯れている木を多数確認

●国内最大の群生地と実感

コモンズによると、約40年前に行われた植生調査では、苫東地区の群生地1㌶当たり2500本のハスカップの木があったという。今回の調査地では、立ち枯れの木も多かったものの、昔のように自生種の密度の高い場所も確認。草苅さんは「今回の調査で改めて国内最大の群生地であるとの実感を得た。美術博物館とは今後もエリアを分担して調べていきたい」と意気込み、小玉学芸員も「他のハスカップ自生地との学術的な比較をしてみたい。最終的にはハスカップ保護につなげたい」と話した。

コモンズは、2013年から同地で独自に植生調査を行っている。この日や月内の作業を含めて計2㌶の調査データが得られ、結果は27日に市サンガーデンで行うフォーラムで発表する考えだ。

（渋谷賢利）

苫小牧民報
2015.05.30

苫小牧市美術博物館　苫東環境コモンズ

ハスカップ調査

失われつつある自生種保全へ

国内最大の自生地とされた勇払原野のハスカップについて、苫小牧市美術博物館とNPO法人苫東環境コモンズ（事務局札幌市）は今年から調査活動を進める。苫小牧市内の自生種の分布を調べる他、ハスカップと市民の関わりなどを記録する聞き取りも予定。成果の一部は、市美術博物館がハスカップをテーマに来年2～3月に開催予定の企画展などで発表する他、苫東環境コモンズは調査をまとめた本の出版も予定し、失われつつある自生種の保全にもつなげたい考えだ。

自生種の分布調査は、市美術博物館が市内全域を対象に調べ、GPS（全地球測位システム）を使って分布地図を作製する計画。苫小牧東部開発地域（苫東）の自然の保全活用に取り組む苫東環境コモンズは、苫東内（柏原）の群生地約3㌶で分布調査を行う。対象範囲が広いため、来年以降も継続して行う考えだ。

開拓農家や栽培者、研究者から聞き取り

ハスカップの実。自生種保全の必要性も叫ばれている

聞き取り調査は、市内の開拓農家や市民、栽培者、研究者などを対象に行う。市美術博物館は、市博物館友の会と苫小牧郷土文化研究会の協力を得ながら、ハスカップに関する思い出話などを市民から集める。苫東環境コモンズは、市内や近郊のハスカップに詳しい関係者から話を聴くことにしている。

ハスカップは、スイカズラ科の落葉低木。苫小牧市などに広がる勇払原野に群生していたが、開発などにより分布が縮小。原野の乾燥化もあって、自生種の将来が危ぶまれている。

市美術博物館の小玉愛子主任学芸員は「ハスカップは勇払原野を代表する植物。自然史的に押さえるとともに、先人の歩みを記録として残したい」と言う。苫東環境コモンズの草苅健事務局長は「開拓時代のハスカップについて知っている人が高齢化しているので、今こそ調査が必要」と話した。

市美術博物館では、ハスカップの思い出話を募集中。締め切り12月末。連絡先は市美術博物館 電話0144（35）2550。

北海道新聞(胆)
2015.06.11

ハスカップ 思い出ください

市美術博物館

苫小牧市美術博物館は、市民から「ハスカップにまつわる思い出」を募集している。地元NPO法人と連携して今月から取り組んでいる調査の一環。「ふるさとを代表する植物の歩みを記録として残したい。ささいな情報でも、気軽に寄せてほしい」と呼び掛ける。

ハスカップは、苫小牧東部に広がる勇払原野でかつて多く自生していたが、工業用地の苫小牧東部地域（苫東）の開発に伴って野生の群生地が縮小した。現在も勇払原野が国内唯一の群生地とされているが、詳しい分布や植生は分かっていない。

同館は今月、苫東で群生地保護を手がけるNPO法人苫東環境コモンズと連携し、植生調査や市民への聞き取りに着手。歴史を体系的に記録した資料が少なく、開発前の様子を知る人も高齢になっている中、「ハスカップの価値を、あらためて捉えなおしたい」（同法人）と連携が実現した。

「古里の象徴 記録したい」

植生調査は、苫東内を同法人が、それ以外の市内全域を同館が担当。聞き取り調査では、同法人が高齢者らのインタビューを担当し、同館は広く市民から思い出話を募ることにした。

思い出話は、「祖母や母がジャムを作ってくれた」「毎年夏に仕込む塩漬けが常備菜の一つだった」など生活の中に身近にあったハスカップの姿から、「実を摘んで市街地に売りに行った」など群生地での体験まで、幅広い内容を想定している。

締め切りは12月末。問い合わせは同館☎0144・35・2550へ。

（荒井友香）

北海道新聞（夕）
2015.06.10

ハスカップ記録 後世に

苫小牧・NPOと美術博物館

分布調査や思い出募集

【苫小牧】国内唯一のハスカップ群生地とされる勇払原野がある苫小牧で、地元のNPO法人と苫小牧市美術博物館が今月から、連携して植生調査や市民への聞き取りを始めた。ふるさとのシンボルの歴史と現状を体系的に記録し、後世に伝える狙い。「ハスカップの価値を捉え直し、市民の誇りにつなげたい」としている。

（苫小牧報道部 荒井友香）

ハスカップ　スイカズラ科の低木。黒紫色の甘酸っぱい実は6月下旬から7月にかけて食べ頃を迎える。現在は胆振管内厚真町や千歳市、美唄市で栽培され、抗酸化作用のあるアントシアニンやビタミンCなどを豊富に含むことがテレビ番組で紹介されるなどして、人気が高まっている。苫小牧市の「木の花」（草の花はハナショウブ）でもある。

㊤栽培され、紫色に色づいたハスカップの実＝昨年6月、胆振管内厚真町　㊦苫東の群生地で、木の陰になって枯れているハスカップを確認する草苅事務局長（右）と小玉学芸員

ハスカップは、かつて苫小牧東部で多く自生し、紫色の実は老舗菓子店の商品の材料や、おにぎりの具に使われるなど親しまれてきた。しかし、苫小牧東部地域（苫東）の工業開発に伴って1970年代から農地などへの移植が行われ、野生の群生地は縮小。現在は栽培が一般的になった。

調査は、苫東に残る群生地の保存を手がけるNPO法人苫東環境コモンズと同館が連携して行う。面積約1万7000㌶の苫東では現在、約3㌶で群生が残っていることが確認されているが、詳しい分布の範囲や植生などは把握されていない。同法人が衛星利用測位システム（GPS）を活用してこれらの状況を調べる。

「開発の中で力強く生きてきたハスカップの記録を残したい」と、同法人の草苅健事務局長(63)は言う。開発前の群生地の様子を知る人が高齢になっており、本格的な調査の必要性を数年前から強く感じていたという。

苫小牧市美術博物館もハスカップについて幅広く紹介する企画展を本年度末に開くことを決め「せっかくなので協力し合いたい」（小玉愛子・主任学芸員）と、連携に乗り出した。同館は、苫東だけでなく、市内全域でのハスカップ自生地の分布を北大農学部と連携しながら調べる。

今月2日には、同法人の苫東での調査に小玉学芸員(35)が同行し、枯れているハスカップの状態などを確認した。

また、聞き取り調査では、同法人が地域の高齢者らにインタビューして、かつての群生の状況などについて記憶の掘り起こしを進める。同館は「昔、おばあちゃんがジャムを作ってくれた」といった、ハスカップにまつわる思い出を広く市民から募る。

調査は、まずは本年度末まで取り組み、来年2月ごろ開く予定の企画展などで成果を発表する。草苅事務局長は「来年度以降も何らかの形で取り組みを続け、将来的には『ハスカップとわたし』『ハスカップの記憶』など本の出版にもつなげたい」と話している。

苫小牧民報
2015.06.24

27日、ハスカップの共有と保全考える

サンガーデンでフォーラム

苫小牧市サンガーデン展示実習室で27日、第5回環境コモンズフォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」が開かれる。入場無料。

環境コモンズ研究会と、NPO法人苫東環境コモンズが主催。基調提言として東京大学大学院の齋藤暖生助教が「自然資源の共有をめぐる知恵と苦悩」、苫小牧市美術博物館の小玉愛子主任学芸員が「ハスカップを過去から未来につなぐために」と題して話をする。

また、苫東環境コモンズの草苅健事務局長は「ハスカップ・サンクチュアリの現況について」を報告する。

開催時間は午後1時半から午後4時。参加希望者は26日までに氏名と連絡先を電話で伝える。申し込みと問い合わせは、北海道開発協会開発調査総合研究所 電話011（709）5213。

北海道新聞
2015.06.28

勇払のハスカップ共有、保全を論議

専門家らフォーラム

【苫小牧】自生ハスカップが群生する勇払原野の環境を共有財産として保全する方法を模索するフォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」が27日、苫小牧市内で開かれた。研究者らが国内外の参考事例などを紹介し、意見交換した＝写真＝。

環境コモンズ研究会（座長・小磯修二北大公共政策大学院特任教授）と、工業地帯の苫小牧東部地域で群生地保存に向けた活動をしているNPO法人苫東環境コモンズの主催で約60人が参加した。

勇払原野の群生地は主に苫東の所有地だが、毎夏、ハスカップが実ると市民らが出入りしてハスカップ狩りを楽しんでいる。

東大大学院付属「富士癒しの森研究所」の斎藤暖生助教は、欧州では土地所有の有無にかかわらず、自由に林野や湖沼に立ち入り、自生イチゴやキノコを採取したり釣りをしたりする「万人権」が認められていることなどを紹介した。

苫小牧市美術博物館の小玉愛子主任学芸員と苫東環境コモンズの草苅健事務局長は、ふるさとのシンボルとして愛されてきたハスカップの歴史や、群生地で進む乾燥化の問題などを説明した。

来場者との意見交換では「一定のルールが必要」「ハスカップに携わる人々が横のつながりを持つべきだ」などの声が出た。

（荒井友香）

読売新聞
2015.06.30

ハスカップ保全へ提言

苫小牧 フォーラムで研究者ら

ハスカップ自生地の共有ルールなどについて検討したフォーラム

苫小牧市で27日に開かれたフォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介し、ハスカップ自生地の保護と活用方法などについて提言した。

地域住民らが土地を共同利用するコモンズ（入会地）を調べている斎藤暖生・東大助教は、岩手県西和賀町で30年ほど前から導入されている山菜やキノコ採りのための入山券販売制度や、スウェーデンでのベリー類やキノコ採取を認めた万人権など、自然資源の共有例を挙げ、管理コストやどこまで開放するかなどについて説明した。

NPO法人苫東環境コモンズの草苅健事務局長は、2013年から毎年5～6月に行っているハスカップ自生地での調査結果を紹介した。乾燥化とともに植生が変わっていることなども示し、「原野は入りにくいため、大勢の人がハスカップ摘みに押し寄せる状況ではないが、先を見越してルールを考える必要があるのでは」と述べた。

市美術博物館の小玉愛子主任学芸員はハスカップ利用の歴史を紹介した。

苫小牧民報
2015.06.29

ハスカップは人類の財産

地域で守る取り組み重要

環境コモンズフォーラム

苫小牧市サンガーデンで27日、第5回環境コモンズフォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」が開かれ、勇払原野に自生するハスカップを共有財産として保全する方策などを考えた。

勇払原野のハスカップをテーマに開かれたフォーラム

環境コモンズ研究会、NPO法人苫東環境コモンズが主催し、市民約30人が参加した。初めに東京大学院の斎藤暖生（はるお）助教が「自然資源の共有をめぐる知恵と苦悩」と題して基調講演。京都のマツタケ採取の入札制度、岩手県の山菜・キノコ採取の入山券販売制度などの事例を挙げながら、地域の自然資源を守る取り組みの重要性を話した。

苫小牧市美術博物館の小玉愛子主任学芸員は「ハスカップを過去から未来につなぐために」をテーマに講演。ハスカップの開花や結実時期など生態、勇払原野のハスカップを原料に、ようかん、あめなど菓子に加工され販売された歴史についても説明した。

苫東環境コモンズの草苅健事務局長は「ハスカップ・サンクチュアリの現況について」と題して報告。苫東地区のハスカップ自生地で行っている種生調査や、土壌乾燥化の影響による地域の植生変化に触れて話した。

フォーラムの冒頭、主催者を代表して環境コモンズ研究会会長で北海道大学公共政策大学院の小磯修二特任教授は「ハスカップを地域の資産としてみえていきたい。苫東にあるハスカップは人類の財産」と語った。